

上田市立丸子北小学校



(1) 学級数 19 クラス

(2) 児童数 男子 240 名 女子 229 名 計 469 名

(3) 職員数 32 名

(4) 学校紹介

<http://www.school.umic.jp/marukoke/>

本校は、上田市の東部に位置し、千曲川水系の依田川沿いに広がる自然に恵まれた田園と住宅に囲まれた所にある。

丸子北小学校は、昭和 48 年 4 月、それまでの旧丸子町立依田小学校と同長瀬小学校が統合されて誕生した学校である。新校舎建設に際しては、双方の学区の位置関係等から、依田川左岸に新しい建設地を定め、昭和 50 年 4 月新校舎が完成した。

開校に際し、地域住民・学校職員は丸子北小学校のあるべき姿として、次の願いを据えた。

『夢と驚き』

子どもに大きな夢を与え、新しく知ることの驚きに気付かせ、勉学の楽しさや喜びを感じ取らせる。

『汎汎揚舟載沈載浮』(はんはんたうようしゅうさいちんさいぶ)

子ども一人ひとりの個性を尊重し、すべての子どもを大らかに抱き取り、共に進んでいく。

爾来、本校は、この二つの願いを根底に、「子どもを主体者とした授業の創造」「個性に満ちた学校の創造」を目指し、研究・実践に取り組んできた。

学校教育目標は、

- 一 仲よく助け合う子
- 二 進んで学び自分の考えが言える子
- 三 最後までやり抜く子

これを受けて、今年度育てたい児童の姿として、「自分なりのめあてを持って、力を合わせて、粘り強く追究する児童」を掲げ、日々取り組んでいる。

(5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本校では、全校研究テーマに「自ら課題を持って学び、共に高めあっていく子どもの育成」を据えている。「自ら課題を持って学び」とは、一人一人の子どもたちが自分の課題を持つことを大切に考え、課題を追究する場面では願いや意欲を持って、自分の見方・考え方・方法で主体的に学習に関わって追究していくことである。そして「共に高めあっていく」とは、主体的に活動したり友だちと意見を交換したりする中で、自分では気づけなかった新たな見方や考え方を知り、改めて自分の見方や考え方を見返し、広げ、深めていく。自分や友だちの学びの質を共に高めていくことを目指している。

大会の研究目標である「自ら考える力と心豊かな人間性の育成」は本校の全校研究テーマと目指すところが一致している。

全校研究テーマを受けて国語科では「子どもたちが関わり合いながら、伝え合う力を高めるための指導はどうあったらよいか。～伝えたい事柄を互いに発表し、アドバイスする活動を通して～」という研究テーマを設定した。友達の発表を見合う際に、話し方の技能面だけではなく、発表内容に関わって自分の思いや考えを伝えたりすることができるための学習指導のあり方について研究を進めている。

また、伝えたい内容が興味深く、相手に分かりやすい資料提示となるような、視聴覚機器の効果的な活用についても探っていきたいと考えている。

(6) 日常的な活用

○ システムの概要と機器

情報関係では、パソコン教室（児童用デスクトップ型 40 台）、職員室（教師用デスクトップ型 4 台 ノートパソコン 16 台）、図書館（図書検索用 デスクトップ型 1 台）が配置されている。各教室及び特別教室は LAN 設備が整っている。ただし、パソコン教室からは、職員室等教師用パソコンにはアクセスできない。プリンターは、レーザーカラー 2 台と白黒 1 台がネットワークプリンターとして接続されている。

放送関係では、スタジオと調整室があり、デジタルビデオカメラ 1 台で放送している。音声放送は、調整卓から放送している。

体育館、校庭とも 4 チャンネルワイヤレスマイク使用、うち校庭は、4 台のスピーカーにアッテネーターを付けて音量調整をしている。

その他機器としては、デジタルカメラ（児童用 10 台 PC 教室 教師用 8 台職員室）デジタルビデオカメラ（教師用 1 台ミニ DV デジタルハイビジョンビデオカメラ 2 台 DVD）、スマートボード、PC 出力付双眼実体顕微鏡、ビデオ顕微鏡、プロジェクター 3 台、OHC2 台などである。

○ 機器の活用

もっとも多いのは、プロジェクター使用で、各行事のオリエンテーション、校長講話、提示用ソフトによる学習のまとめなどである。放送室からの映像放送では、各委員会から児童が撮った映像をノンリニア編集し、お昼の放送で流すことが多い。

また、理科学習では、ビデオ顕微鏡やデジタルマイクロ双眼実体顕微鏡でメダカの卵やミジンコなどの提示に使用している。国語や社会では、児童が取材したデジカメの映像を提示用ソフトで発表しあうなどしている。

各行事の記録は、係がデジカメで撮り、行事ごとのフォルダーに整理して、お便りなどで使いたいときにすぐ分かるようにしている。



児童会主催「北小祭」の発表場面

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

国語科では「伝え合う力」を高めるための指導のあり方を研究してきたが、子どもたちには伝えたいことがあるが、言葉だけでは伝えられない時に、視聴覚機器を使うことで、相手により分かりやすく伝えることができるということが分かってきた。しかし、視聴覚機器の使い方に慣れていないのが現状である。そこで、発表する際の視聴覚機器の活用法について、

- ・子どもたちが自ら視聴覚機器を使いこなせるようにしていく。
- ・子どもたちが自分で視聴覚機器を選択して、活用できるようにしていく。
- ・より分かりやすい資料提示の工夫をしていく。

といった点を踏まえながら研究を進めていきたい。



国語「ともさんはどこかな」のアナウンス場面